

# 助動詞 “can” に関する一考察

米 田 佐紀子  
澁 谷 良 穂  
池 中 雅 美

## 0. 初 め に

助動詞 can と言えば、たいてい中学1年で学ぶものであり、習得するのにも他の文法事項に比べて易しいと思われている。実際、英語学習者に聞いてみても、文法事項でむずかしいものとして can を挙げる者はほとんどいないだろう。しかし筆者たちは、学習者がよく知っているのは can の用法の一部である「能力」としての can が主であり、その他の用法は、存在を知っているがどのようなものかよく理解しておらず、読解や作文の時に正しく用いることができていない事に気付いた。

教師の側も、また学習者自身も習得しやすいと思っているにもかかわらず、なぜ正しく使うことができないのだろうか。その理由の一つとして、日本語の助動詞と英語の助動詞が違っているため、助動詞そのものの概念が日本人に捉えにくいということが挙げられるだろう。また、英語では、一つの助動詞が多くの意味を表したり、同じ意味を表すのにいくつかの異なる助動詞が使われたりしているのも、大きな理由である。たとえば 50% 以下の確実性を表すのに may, might, could がほぼ同じように使われるが、それぞれの助動詞はまた、別の意味（may は許可を与える時に使われるなど）を表すのにも使われる。これについて、Dorothy Danielson らは *Using English* の中で、次のように述べている。

... The meanings of modals can be a problem because one modal may have several meanings, and two or more modals can each have the same meanings. For this reason, it is essential to consider a modal in a context. CAN, for example, expresses possibility, ability, and permission . . . . Notice that other modals can express these three meanings.

このことからわかるように、助動詞 can にはさまざまな用法がある。しかも、これらの用法は学習者にわかりやすく context の中で教えられていないのではないだろうか。そして can の表す意味の中に他の助動詞でも表せるものがあることが、いっそう学習者の混乱を招く原因となっているのではないだろうか。

また、can と could を教えるときにも配慮が必要であろう。can = 「～できる」、could = 「can の過去」、つまり「できた」と覚えると、では Could you pass me the salt? は「? 塩を渡すことができましたか」となる。また、could も can と同じく現在や未来を表すときに使うと言

えば、could=「can の過去」という定義に反する。こうして学習者は壁にぶつかってしまうことになる。can=「～できる」では全てを網羅できないのである。

もう一つ見落とされがちなものに be able to がある。can=be able to と教えられることが多いが、実際には be able to の表す概念は can の表す概念のほんの一部である「能力」のみである。しかも過去形においては、could を使う場合と was/were able to を使う場合がはっきりと異なっている。この違いを、学習者はきちんと把握できていないのではないだろうか。

本稿では、筆者3人が教えている短大生をもとに、助動詞 can could, be able to について、何が、どの程度、どのようにわかっていないのか、それはなぜか、などについて QUIZ やアンケートをもとに探り、どのような対策をとったら良いかを考えていく。

### 1. can/could/be able to の用法

1.0 この章では can/could/be able to がどのような用法をもっているのかを見ていく。これらの助動詞が示す概念をまず知ることが、理解への近道であろう。しかし、日本語の概念と英語の概念は違うことが多く、それを言葉で説明しようとするのは、かえって把握しにくくする。そこで、筆者たちは、表で表すことによって、いかに日本語の概念と英語の概念が違うのか、英語はどの様なときに can/could/be able to をつかうのかを示そうと考えた。表は Fig.1～Fig.4 で、can/could/be able to の用法に照らし合わせたときの日本語の概念を示して

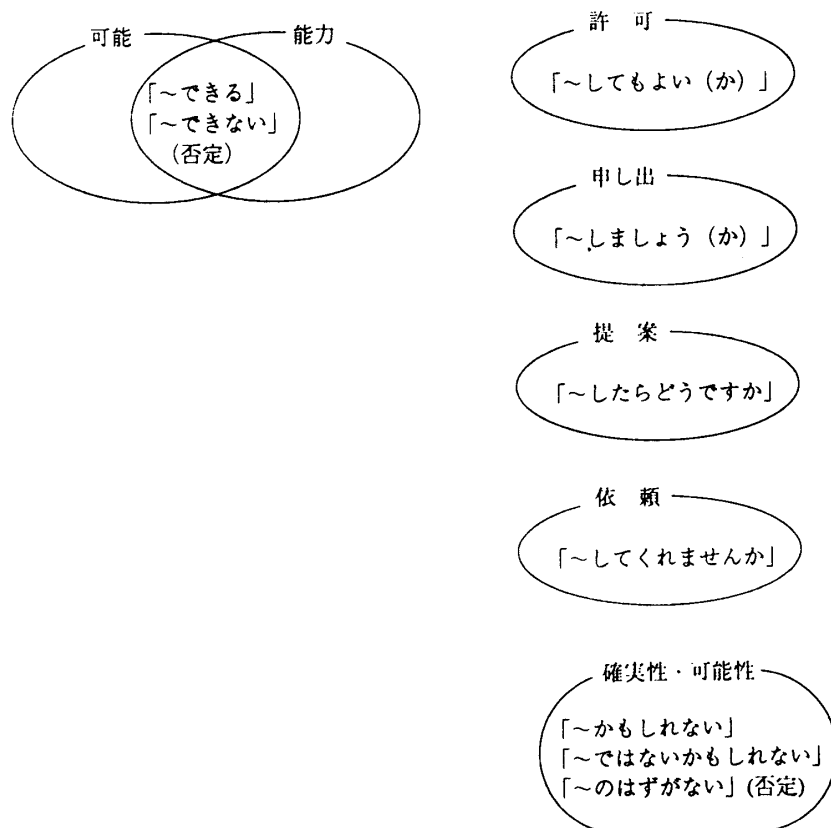


Fig.1 can, could, be able to の用法に照らし合わせたときの日本語の概念

助動詞 “can” に関する一考察

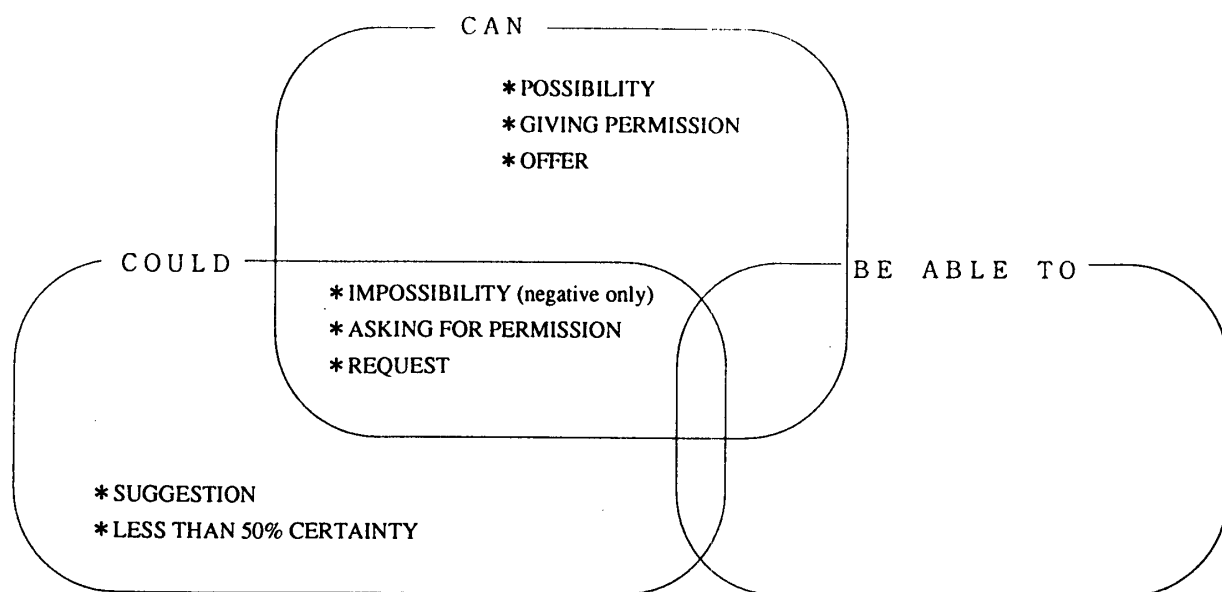


Fig. 2 英語における can/could/be able to の概念

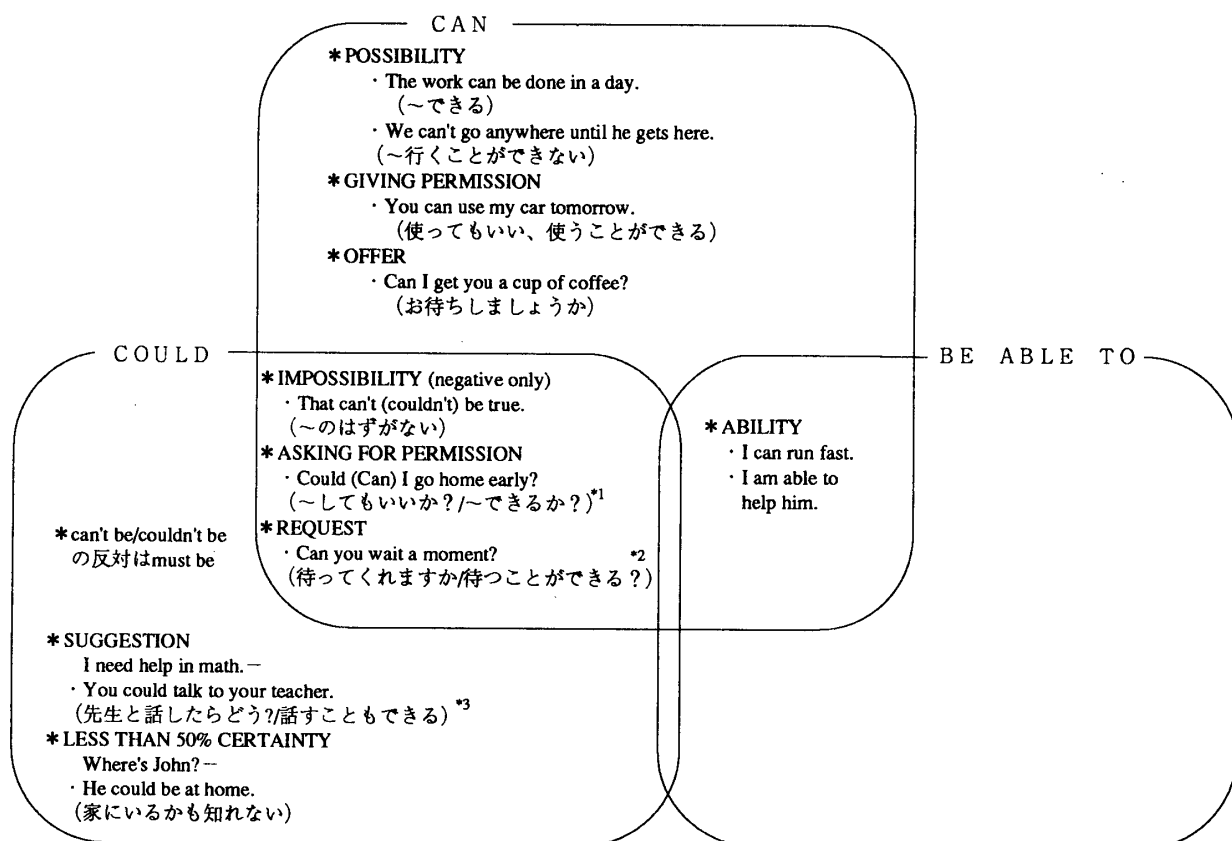


Fig. 3 現在をあらわす時

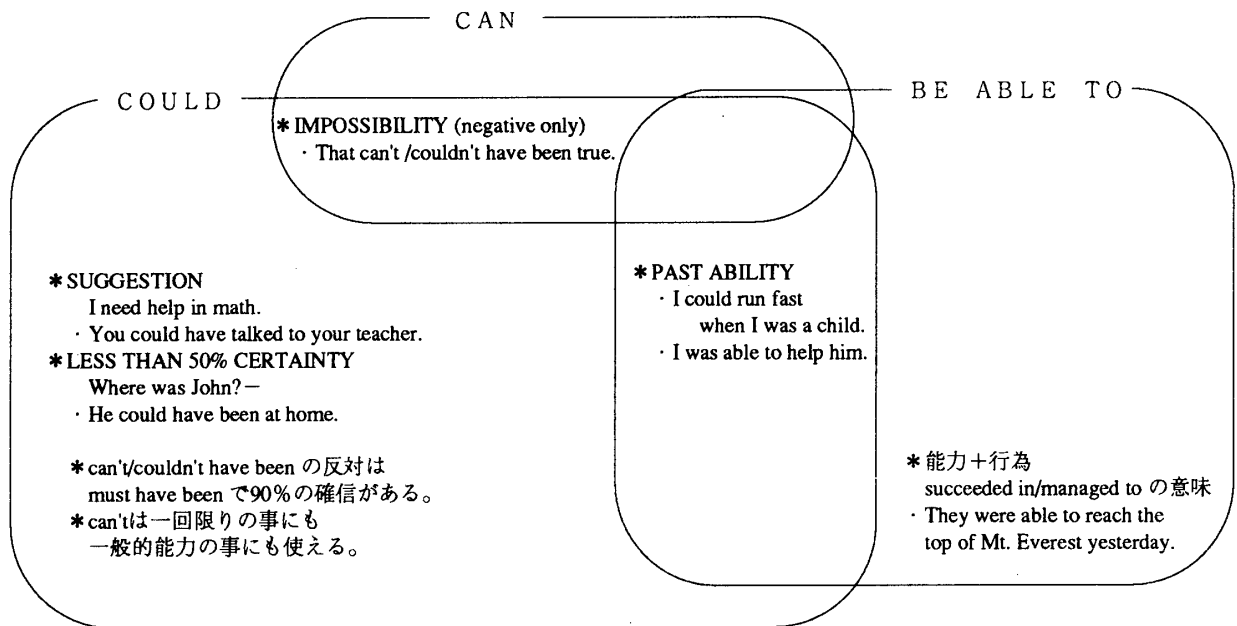


Fig. 4 過去をあらわす時

いる。

どの言語を比較しても言えることであろうが、ある言語の一つの単語に含まれる用法は、別の言語の同義語にもすべて同じ用法が含まれるとは限らない。むしろ、含まれない方が多いだろう。日本語と英語も同じである。英語の can は、日本語の「～できる」と同義であると同時に「～しましょうか」「～してもいいですか」など、別の日本語を当てねばならない用法を多く持つ。この事は、Fig. 1 と Fig. 2 を比べれば、一目瞭然である。この違いが、\*1 \*2など本来は有り得ない言い回しなのに「～できる」というふうに overgeneralize して生み出すことに繋がったと言えよう。

理解をいっそう困難にしているのは、can は現在、could は過去、と割り切れない点である。ここで Fig. 3 を見てみよう。can が「～できる」と訳せるのは can の用法のほんの一部であり、同じ can でも状況によっては「～になりえる」(Anybody who wants to can be a prison visitor. (Swan, 1987) と訳さなくてはならない。また、これと同じ用法でも Someone's at the door. \*It can be Susan.と言えない。つまり、複雑な要素が絡んでいる。また、現在や未来のことを述べているのに could を使った方が良い場合などがある。間接話法においては、Mary said "I can～" は Mary said she could～. と言うように従属節の中の動詞、助動詞の時制を一致させることも必要であり、could は can の過去として覚えても良いのか、全く独立したものとして覚えるべきなのかといった問題が出てくる。いずれにしても、日本語のフィルターを通して見ようとするのは、所詮無理だということがここでわかる。

Fig. 4 を見てみよう。よく書換え問題でつかわれる could や be able to の置き換えは ability の用法でのみできることで、しかも、could を past ability として見るときは、When I was young, や At the age of……のように示すことが必要である。これは「～する事ができ

た」という日本語にはないルールであり、ここでも日本語の概念や用法を持ち込んで理解しようとするのは、余計に混乱するだけだとわかる。

こうした点をふまえて、つぎの章では実際には学習者がどうとらえているのかを見ていく。

## 2. can/could/be able to に対する学生の理解

2.0 can/could/be able to のそれぞれの用法について、学生が何を、どの程度、どのようにわかっていないのかを調べるため、Quiz とアンケートを行なった。以下はその結果と分析である。

### 2.1 学生への QUIZ 及びその分析

次は、英語科2年生10名と1年生90名の計100名に対して行なった QUIZ とその結果、及びその分析である。設問 I、II 共、最も適切と思われる答えには、\_\_\_ を引いてある。設問 III には、学生が書いた答の中で主だったものを選び列挙した。

I. 次のそれぞれの2つの文の下線部の語句の用法が同じものには○、異なっているものには×をつけて下さい。

(1) ○ 96 a. Can you speak any foreign languages?

× 4 b. I can play the piano very well.

a、b 共 ability であり、100名中96名が○をつけていることから、この用法はほとんど学生に理解されていると思われる。

(2) ○ 11 a. Can you come to a party on Saturday?

× 89 b. Can I buy you a drink?

a は future possibility 又は request ととれる。b は offer であり、89名が違いを認識しているため、ほぼ理解されていると思われる。

(3) ○ 80 a. Tom is strong. He can lift that heavy box.

× 20 b. Can you come here a minute?

a は ability、b は request、又は possibility である。80名が○をつけて、2つの用法が同じととっている。Request の can (「来てください」) というより、「来れますか」というふうに、来ることが出来るかどうかを尋ねていると受け取った学生が多かったということだろう。ability と possibility はほとんど区別されていないことが多いので、用法が同じであると捉えられたのではないか。

(4) ○ 75 a. Can you drive a car with a stick shift?

× 24 b. Are you able to drive a car with a stick shift?

a、b 共 ability であるが、形が can と be able to というふうに異なっている。そのため、24名の学生が用法が違うと受け取っている。これは、文の内容(意味)よりも形の違いに捕らわれての結果ではないかと思われる。

(5) ○ 10 a. It can't be true.

米 田・澁 谷・池 中

× 90 b. You can certainly cook, even if you can't do anything else.

a は impossibility、b は ability である。90名がこの2つの用法の違いを理解している。

(6) ○ 23 a. What should we have for dinner? We could have fish or we could go out

× 76 b. When I was young, I could climb any tree in the forest.

a は suggestion、b は past ability である。76名が用法の違いを理解しているが、23名は同じととっている。suggestion としての could の用法がよくわかっていないのと、could は can の過去と受け取った結果ではないか。

(7) ○ 9 a. Could you show me the way to the station?

× 91 b. Although the pilot was badly hurt, he was able to explain what had happened.

a は request、b は ability である。91名がこれらの用法の違いを理解している。

(8) ○ 95 a. She was able to sing like an angel when she was a kid.

× 5 b. When I was younger, I could run fast.

a、b 共 past ability であるが、形が could と was able to というふうにならなっている。95名が用法が同じと受け取っていることから、用法の内容の理解ができていると思われる。これは、(4)の結果と矛盾している。その理由として以下の事が考えられる。1. (4)の文は a、b 共に can/be able to 以外の形が全く同じであり、(8)では違っていることから、(4)は何か違っているはずだと、学生が深読したのかもしれない。2. 現在形の be able to はあまり使われないことから、用法が何か違うと思う学生がいたのかもしれない。3. could は can の過去としての用法のみが特に理解されているので、was able to と could は同じと取ったのかもしれない。

(9) ○ 15 a. Can you play the piano better than your sister?

× 85 b. Can you give me some advice?

a は ability、b は request である。85名は用法の違いを理解しているようであるが、15名は同じ用法だと受け取っている。(3)と同様に request の can の用法が充分理解されていないということであろうか。

(10) ○ 16 a. It can't be him. He's on business trip now.

× 84 b. Dogs can't talk.

a は impossibility、b は ability である。84名の学生が違う用法であると捉えており、ほとんどの学生は違いを理解していると思われる。16名の学生が同じ用法であると受け取っているが、わからなかった学生は、can't という形にとらわれて違いが見抜けなかったのかもしれない。

(11) ○ 67 a. Could I ask you something?.

× 33 b. Can I stay up late?

a、b 共 permission であるが、can と could という形の違いのためか、67名の学生が同じだと理解している一方、33名の学生が、違う用法の文であるとしている。could の permission としての用法に慣れていない学生が多いためかもしれない。

(12) ○ 68 a. You can use my car.

× 32 b. I can walk to school. It's not far.

a は permission、b は ability 又は possibility である。32名の学生が違いを認識しているが、68名という多数の学生が同じ用法であると捉えている。用法の違いを理解していない学生の数が倍近くになっているが、You can use my car. を permission 「使ってもいいよ」ではなく、possibility として「使えるよ」というふうに理解した結果こうなったのではないかと思われる。

II. 次の ( ) に A (can), B (be able to), C (could) のうち、可能だと思われるものはすべて記入して下さい。答は A, B, C で書いて下さい。

(1) He ( ) speak German well when he was young.

A	B	C	A B C	A B	<u>B C</u>	A C
3	9	28	3	3	49	0

past ability の could または was able to が答えとして適当である。could/was able to を選んだ学生が49名おり、could または was able to どちらか一方を選んだ学生を合わせれば、86名となる。past ability としての用法がかなり理解されているようである。

(2) I ( ) read that book in two hours yesterday.

A	<u>B</u>	C	A B C	A B	B C	A C
3	11	43	2	0	39	0

この英文では、be able to のみが答えとして適当である。could と am able to 両方可能であるとした学生は39名おり、could を選んだ学生は43名もいた。be able to のみを選択した学生はわずか11名である。このことから、「past ability は could」、「can の過去は could」であると学習してきたことがうかがえるのではないだろうか。

(3) The door was open so we ( ) see inside.

A	B	C	A B C	A B	<u>B C</u>	A C
5	8	42	7	3	32	2

(1)と同様に could または was able to が答えとして適当である。32名の学生が両方可能であると解答しており、could のみは42名、was able to のみを選択した学生は8名であった。(1)と同様に past ability としての用法が理解されていると思われる。

(4) ( ) I borrow your pen?

A	B	C	A B C	A B	B C	<u>A C</u>
35	0	4	0	0	0	59

permission の用法として、could または can が適当である。could と can 両方可能であ

るとした学生が59名であり、can のみと答えた学生は35名である。英文が現在のことを表しているため can のみを選択したということが考えられる。permission の用法として、could と can 両方使えると理解している学生が多い反面、can のみと答えた学生が35名いるということは、could は過去だから使えないと理解している学生もかなりいるということがわかる。

- (5) My hands are full. ( ) you carry this bag for me?

A	B	C	A B C	A B	B C	<u>A C</u>
19	0	24	1	1	0	53

request の用法であるから、could またはcan が適当である。can のみと答えた学生は19名、could のみは24名、can と could 両方可能であると答えた学生は53名であった。何かを依頼するときの丁寧な表現として、Could you~? という構文で学習してきたためと思われる。(4)の結果と異なるのは、Can I~? Could you~? というふうに決まった表現として覚えているからではないだろうか。

- (6) I ( ) do the shopping for you if you're tired.

A	B	C	A B C	A B	B C	<u>A C</u>
32	12	12	1	28	4	4

permission の用法として、could またはcan が適当である。47名の学生が could/can 両方可能であるという正答をえらんでいる。またほぼ同数として、44名の学生が Can I~? のみを正解としている。Could I~? のみを選んだ学生はわずか5名であった。(5)と同様に Could I~? の表現に慣れていないためか、あるいは許可を求めるときの Could I~? の表現を知らないための結果であるかもしれない。

- (7) The fire spread through the building very quickly, but everyone ( ) escape.

A	<u>B</u>	C	A B C	A B	B C	A C
1	10	36	1	5	42	3

この英文では、(2)と同様に be able to のみが適当である。be able to のみを解答とした学生は10名であった。could あるいは、could と be able to 両方可能であると答えた学生は78名にもなった。これは、be able to の managed to の用法が理解されていないためであろう。

III. 次の英文を訳して下さい。

- (1) Can you open the window?

窓を開けて下さいますか。

窓を開けることができますか。

「窓を開けて下さいますか。」という依頼の表現である。しかし、「窓を開けることができますか。」という ability ととっていると見られる解答があった。



(2) Can I help you?

私はあなたを手伝うことができますか。

どうしましたか。

「手伝いましょうか。」「いらっしゃいませ。」という訳になる。

「わたしはあなたを手伝うことができますか。」という possibility あるいは ability とつてしまった訳が見られた。

(3) Can I borrow your pencil?

あなたの鉛筆を借りることができますか。

鉛筆を貸すことができますか。

鉛筆貸してちょうだい。

「あなたの鉛筆を借りることができますか。」「鉛筆を貸すことができますか。」という訳が見られた。Can I~?=possibility/ability ととってしまい、can=「できますか」と訳さないといけないと思っている学生がいるということであろう。

(4) Could I use your phone?

電話を使っても良かったですか。

あなたに電話をかけましょうか。

電話をお借りできますか。

許可を求める Could I~? の言い方であるが、could を単なる過去として訳し、「電話を使っても良かったですか。」とした学生がいた。

(5) Could you wait half an hour?

30分（も）待てますか。

30分待つことができましたか。

30分待ってくれたのですか。

30分待っていたのですか。

30分待つことができますか。

ここでは依頼なので、「30分待っていただけますか。」という訳になるが、could を can の過去として捉え、「～できた」という訳が見られる。

(6) Can it be Susan?

スーザンに間違いはないですか。

スーザンもいい。

スーザンはそれをできるの。

それはスーザンだという可能性があるのですか。

スーザンはいますか。

その人はスーザンですか。

スーザンを入れてもいいですか。

スーザンじゃないのですか。

スーザンはそれをできましたか。

スーザンでしょう。

スーザンに会えますか。

スーザンがいることができますか。

それはスーザンのはずですか。

スーザンかもしれない。

この英文には様々な訳が見られた。英文自体の理解ができていないようである。Can it be Susan? の“it” がなにをあらわしているのかわからないようであるし、またこの英文が発語される状況も描けないようである。そのため、can=「~できる」のみを手掛かりにして、「スーザンはそれをできるの。」、「スーザンがいることができますか。」など「~できますか」という訳が出てきているのではないか。

(7) Jack was an excellent tennis player. He could beat anybody.

彼は誰も打ち負かせる。

彼は誰も打ち負かせない。

誰でも乗せることができた。

誰であろうと打ち負かす。

誰にも勝つ。

誰よりも強いに違いない。

誰でも負かすことができる。

皆を負かすに違いない。

誰にも負かされなかった。

誰でも打ち負かすことができた。

「彼は誰も打ち負かせる。」、「誰れであろうと打ち負かす。」、「誰にも勝つ。」、「誰よりも強いに違いない。」、「誰でも負かすことができる。」など、現在の意味にとっている学生が多い。これは、「~しようとすればできる」という仮定法と勘違いしているためか、could の用法がよくわかっていないということであろう。

(8) A: I'm having trouble in math class.

B: You could talk to your teacher. (下線部のみ)

先生に言えば良かったのに。

先生に話すでしょう。

相談すればいいのに。

先生に話してみるべきだよ。

先生と話したらいいのに。

先生と話することができるはずです。

先生に話しに行った。  
先生に聞くことができるよ。  
先生と話す/相談/質問することができた。  
先生に尋ねなさい。  
先生に話しかけられますか。  
先生に聞くことができた。  
先生に話すことができただろうに。  
先生に話しかけるべきです。  
先生に話しかけるべきでした。  
先生に質問すればいいよ。  
先生に話すことができるのに。

could=「can の過去」=「～できた」と受け取ったと見られる。「先生と話す/相談する/質問することができた。」という訳があった。また、仮定法と「～できた」という意味が一緒になってしまったため、「先生に話すことができただろうに。」「先生に言えば良かったのに。」という訳もみられる。「～なのに」という文の裏には、「本当はしていない」というニュアンスが見られ、これも仮定法の影響と思われる。ゆえに suggestion としての could の用法を習得していない学生が多いことがわかる。

## 2.2 学生へのアンケート及びその結果

次は、2.1の QUIZ と同じく北陸学院短期大学英語科2年生10名と1年生90名、計100名に対して行なったアンケートと、その結果である。ア～エの左横の数字は100名中の該当者数を示す。但し、/を使って人数を明記してある場合はその前の項目の回答者数をもととしている。

〈アンケート〉 次の質問に、答えて下さい。

1. can という助動詞を最初に習ったのは、いつですか。

- 96 ア. 中学校
- 0 イ. 高校
- 4 ウ. 覚えていない
- 0 エ. その他:

2. 「can=～できる」の用法 (e.g. I can speak English.) はよく知っていますか。

- 59 ア. よく知っている
- 41 イ. だいたい知っている
- 0 ウ. あまりよく知らない
- 0 エ. 全く知らない

3. can を使った表現が、「～できる」の他にもあると思いますか。

- 91 ア. あると思う

- 3    イ. ないと思う
- 6    ウ. よくわからない
- 0    エ. その他:
4.   3でア(あると思う)と答えた人のみ、答えて下さい。  
「～できる」以外の表現には、どんなものがありますか。
- 29/91    ア. よくわからない
- イ. (知っているものをいくつでも挙げてください)
- can be=でありうる
  - 許可を与える/求める  
  (～してよい)  
  (can I=～していいですか)
  - can't=～のはずがない
  - can you=～を求む  
  (～していただけますか)
  - ～のはずだ
  - can be=～に違いない
  - ～しなければならない
  - いったいどうして～なのか
5.   can=be able to と習いましたか。
- 75    ア. 習った
- 21    イ. 習ったと思う
- 2    ウ. 覚えていない
- 2    エ. CAN と be able to は違うと習った
6.   5でエ(違うと習った)と答えた人のみ、答えて下さい。  
can と be able to は何がどう違いますか。
- ア. よくわからない
- イ. わかっている範囲で詳しく書いて下さい
- can は未来形では使えない
  - 助動詞の後には be able to
7.   中学・高校や塾などで、can を be able to にそのまま書き換えるような「書換え問題」  
をしましたか。
- 28    ア. よくした
- 52    イ. たまにした
- 5    ウ. していない
- 15    エ. 覚えていない



- 中学 8
  - 高校 18
- 26/90 イ. 習ったと思う (いつ: )
  - 中学 3
  - 高校 13
- 5/90 ウ. 習っていないと思う
- 18/90 エ. 覚えていない
- 12. 11でア・イ (習った/習ったと思う) と答えた人のみ、答えて下さい。  
could の他の用法は、いつ習いましたか。
  - 2/67 ア. could=can の過去と同じ時に習った
  - 55/67 イ. could=can の過去より後に習った
  - 1/67 ウ. could=can の過去より先に習った
  - 0/67 エ. 習っていないと思う
  - 9/67 オ. 覚えていない
- 13. 10でウ (習っていない) と答えた人のみ、答えて下さい。  
could には他に用法があると思いますか。
  - 1/ 2 ア. 思う (理由: )
    - 丁寧な表現がある
  - イ. 思わない (理由: )
  - 1/ 2 ウ. よくわからない
  - エ. その他:
- 14. could=was/were able to と思いますか。
  - 42 ア. 思う
  - 35 イ. 思わない
  - 31 ウ. よくわからない
  - 1 エ. その他:
- 15. 14でア (思う) と答えた人のみ、答えて下さい。  
その理由は次の内どれですか。(複数解答可)
  - 11 ア. 中学校で習ったから
  - 1 イ. 高校で習ったから
  - 2 ウ. その他 (塾・参考書) で習ったから
  - 28 エ. can=be able to だから、その過去の could=was/were able to も同じと思う
  - 2 オ. その他:
    - ア、イ、ウ、エ全てが理由

## 助動詞“can”に関する一考察

16. 14でイ（思わない）と答えた人のみ、答えて下さい。

その理由は次の内どれですか。

- 0/35     ア. 中学校で習ったから  
6/35     イ. 高校で習ったから  
1/35     ウ. その他（塾・参考書）で習ったから  
15/35    エ. よくわからないが何となくそう思う  
3/35     オ. その他：  
          ・同じ意味もあるが、仮定法でも使われる  
          ・そうだとは限らないから  
          ・必ずしもイコールではないと思う

10/35           無解答

17. can が使われた文で、意味がよくわからないことがありますか。

- 1     ア. 全くない  
35    イ. ほとんどない  
63    ウ. たまにある  
1     エ. よくある

18. 17でウ・エ（たまに/よくある）と答えた人のみ、答えて下さい。

それではどんな時ですか。（複数解答可）

- 11     ア. 会話の授業で  
17     イ. READING の授業で  
42     ウ. 文法の授業で  
4     エ. LISTENING の授業で  
3     オ. その他：

- ・問題集の中で何かの文を読んでいた時、どう訳したらいいかわからない

### 2.3 アンケート結果の分析

1～3から、能力・可能の意味の can はよく知っている学生が多いということがわかる。しかし4を見るかぎり、具体的には能力以外の用法（許可・可能性・依頼など）を理解していない、あるいは知らないのではないかと思われる。

5と6から、can=be able to と習ったという学生がほとんど全員であり、同様に7からこれらの書換え問題をした者も8割に上っていることがわかる。be able to の表すものは能力のみであるから、can の他の用法については学生にあまり知らされていないか、知らされても習得されるにいたっていない、ということが伺える。

8では文脈に入れて習ったと答えたものが過半数であるが、これは教科書を指していると思われる。2.2の Quiz やその結果でもわかるように can/could/be able to の用法をしっかりと

把握していないと思われるので、これまでの学習の過程では、様々な用法を学びとるには文脈が不十分であったのではないかと考えられる。

9～13から could = 「can の過去」以外の could の用法は習ったものの、よく理解していないことが分かる。

14～16から、could と was/were able to の違いを知らない、あるいはよくわからない者が過半数おり、違うと答えたものもただ漠然とそう思っているに過ぎないということがわかる。

このことから17・18に見られるように能力以外の用法で用いられた can/could に出会ったとき、理解できないことがあるのも当然なことと思われる。

### 3. アンケート及び QUIZ 結果による分析

アンケート及び QUIZ の結果から、ほとんどの学生が能力以外の can の用法をよく理解していないということがわかった。その原因として、次の3つが考えられる。

- (1) 導入時の問題
- (2) 一対一対応の訳の問題
- (3) 書換え・穴埋め作業の問題

#### (1) 導入時の問題

中学校教科書の Teacher's Manual の中には、can の様々な用法を説明したのものもある。ただそれが重要な項目ではないために、あまり詳しく取り上げられておらず、生徒がきちんと文脈の中で習得できるようには配慮されていないようである。can は早期に導入され、比較的分かりやすいことから、例えば「過去のある特定の時点で～できた」(= managed to) という場合には could ではなく was/were able to を用いなければならないということなどが見過ごされてしまうのだろう。

#### (2) 一対一対応の訳の問題

導入時に can = 「～できる」、could = 「can の過去」というように、一つの英語の単語に対して一つの日本語の単語を当てる一対一対応の訳を与えることによって、それ以外の用法の習得に障害をきたすなど中学校以降の学習にまで影響を与えている。

#### (3) 書換え・穴埋め作業の問題

can = be able to のように、形の上では書換えられるものはたしかにあるが、意味や使われる状況を考えると、必ずしももとの文と書換えられたものが同じ意味の文となるとは限らない。むしろ、この文脈では can、別の文脈では be able to というように教える必要があるのではないか。又、アンケート結果の考察でも述べたように can = be able to の書換え問題を多くやり過ぎたがために、他の用法の理解を阻害してしまっていると考えられる。

上記以外にも、文法書の説明の問題が考えられる。

筆者達が調べた中学から大学教養レベルまでの文法書及び参考書では、文脈を示さずに様々な用法を羅列しているものが見られる。これも学習者の意欲を失わせ、can/could/be able to



を正しく理解することを、いっそう難しくする要因となっているのではないか。

#### 4. 結 論

これまで見てきたように、学習者は can, could, be able to の用法をはっきりと理解していないようである。これは QUIZ の結果からも、またアンケートからも読み取れる。今までの can, could, be able to の扱い方では、

I was able to pick up the tickets last night.

は文法的に正しいが、

\*I could pick up the tickets last night.

は非文であるということがわかる学習者は、少なくとも当然であったと思われる。

本稿第1章の表や第2章及び第3章の QUIZ、アンケートを分析した結果、学習者の混乱の原因には、

(1) can の用法のうち、「能力」の用法のみはほぼしっかりと理解されているようであるが、このことが逆にその他の用法の習得を阻害している。

(2) can=be able to を前提に context のない書換え問題をやらされることも、学習の妨げになっている。

(3) can=be able to という公式が前面に押し出され、現在や未来を表す could や可能性や許可を表す can は申し訳程度にしか触れられていない。

(4) can や could, be able to それぞれの持つ概念がきちんと提示・整理されておらず、その結果理解されることなく、終わってしまっている。

(5) 教師の側が、can=「～できる」、could=「～できた」のように、一対一対応の訳をつけて教えがちであり、学習者もそれを丸暗記してしまう。

(6) 本稿第1章の表 (Fig. 3) を見てもわかるように、同じ can や could を使った文でも、用法が違くと日本語の訳 (意味) が全く違ってくる。

など、さまざまなのが挙げられるということがわかった。

確かに can/could については、他の助動詞と同様、その表す概念の範囲も広く、意味・用法をはっきり示して学習者に理解させるのは困難である。しかし、たとえ少しでも学習者の混乱を解決するため、次のような点に留意して教えることが必要なのではないだろうか。

(1) could=「can の過去」というように形にこだわって教えるのではなく、それぞれ独立したものとして、一つの lexical entry として教える。(助動詞は tenseless auxiliary であるということを理解させる。)

Celce-Murcia & Larsen-Freeman によれば助動詞は歴史的見地からすれば、現在形とか過去形があったが、現在では tenseless auxiliaries として認められている。たとえば、can の過去が could とみなされていると同じように、shall の過去形とみなされている should も、That should be Sara. (present) や、You should see a doctor. (future) のように、現在や未来のこ

とがらを述べるのに使われるからである。たいていの教科書、参考書はこのこと（過去形が現在や未来を表すという事実）に触れながらも could の第一定義を「can の過去」とし、しかも他の定義についてはあまり詳しく言及されないことが多いので、学習者は混乱するのではないだろうか。

(2) Could you～や Can I～のような表現をただ丸暗記させるのではなく、一つの function を表すにもさまざまな言い方があるということを、比較的早期から提示し、かつ communication の中でも使えるよう指導していく。

QUIZ の結果から、多くの学生が Could you～や Can I～を固定した表現として覚えているらしいことがわかったが、これは本当の意味で can と could の用法を理解していることにはならない。むしろ、真の理解の妨げになるのではないか。

(3) 文脈 (context) に入れることにより、can, could, be able to の違いがはっきりとわかるように提示する。

例えば、Azar の *Understanding and Using English Grammar* には、以下のような例文がある。

- (a) When I was younger, I could run fast. (Probable meaning: I used to be able to run fast.)
- (b) Tom has started an exercise program. He was able to run two miles yesterday without stopping or slowing down.

これにより、学習者は was able to と could の違いを文脈を通して理解できるのではないだろうか。それを定着させるためには、多くの例文に触れさせることが大切であろう。

#### 参 考 文 献

- Azar, Betty Schramper. *Understanding and Using English Grammar*. Prentice-Hall Regents, 1989.
- Ballin, W. H. *Perfect Your English*. Prentice Hall International Ltd., 1990.
- Celce-Murcia, Marianne, Diane Larsen-Freeman. *The Grammar Book*. Heinlae & Heeinle Publishers, 1983.
- Danielson, Dorothy, Patricia Porter, Rebeca Hayden. *Using English*. Prentice-Hall Regents. 1990.
- Murphy, Raymond, Roanne Altman. *Grammar in Use*. Cambridge University Press, 1990.
- Swan, Michael. *オックスフォード実例現英語用法辞典* オックスフォード大学出版局.
- 上田明子, 北村宗彬他「英語基本語彙辞事典」中京出版 1983.
- 川口鷹利, 小泉仁他「英文用例事典 (文法遍)」日本図書ライブ.
- 小西友七編「英語基本動詞事典」研究社.
- 鶴田庸子, ポール・ロシター, ティム・クルトン共著「英語のソーシャルスキル」大修館書店 1988.
- トムソン, A.J., A.V. マーティネット著, 江川泰一郎訳注「実例英文法第四版」オックスフォード大学出版局 1987.
- 綿貫陽著「基礎からよくわかる英文法」旺文社 1992.
- New Horizon English Course 1, 2, 3 解説編 東京書籍 1993.
- New Crown English Series 1, 2, 3 解説編 三省堂 1993.